



内田 勇 議員

質問 トンネルコンポスト方式で ゴミの資源化を

町長 コストや効果、有効性等について
調査したい

- 1 残渣等の発生が少なく、資源化効率が高い
- 2 生物脱臭で臭気を抑制
- 3 処理水が発生しない
- 4 CO²の排出を抑制する
- 5 ダイオキシンが発生しない
- 6 複雑な設備等を要しないため、初期投資費用が安価
- 7 化石燃料の使用を抑制するなどにより、施設運営費用が安価

ゴミを資源化するトンネルコンポスト方式の特徴

燃やすという工程がないのでCO₂の発生を抑制し、ダイオキシンも発生しないし、焼却灰を埋め立てる最終処分場もいらす、初期投資も安い日本初の事業で

香川県三豊市では、トンネルコンポスト方式で、バイオトンネルと呼ばれる発酵槽と、バイオフィルターという脱臭装置を組み合わせたゴミ処理技術で、ゴミを固形燃料として有効利用されている。

岡山県奈義町は、平成26年には合計特殊出生率2.81で全国一の成果をあげ、前年比40%増と驚異的な伸びである。

奈義町の出産祝金事業は、平成16年度から第1子10万円、第2子15万円、第3子20万円、第4子30万円、第5子以降40万円と5段階に分けて増額支給を実施している。

インバクトのある少子化対策で、子ど

私たちの生活の中で発生するゴミをいかに減量化し、また再利用し、資源化するかが求められている。

ゴミを焼却処分すると大量の化石燃料が使われ、温室効果が

ガスとなって地球温暖化の原因となっているが、日本は世界一ゴミを燃やす国である。

奥出雲町の現在のゴミの発生状況は、

町民課長 町内のゴミの排出量は、平成28年度で3,740tと人口減少に比例して減少傾向にあり、一人1日当たりのゴミ排出量は全国平均や島根県平均より低く、8割が焼却処分である。

ある。

バイオマス産業都市構想の認定も受けた奥出雲町にとってふさわしい事業と考

町長 供用開始から間もなく、実績も少ないことからコスト面や効果・有効性について、今後の推移を見守りながら調査を行う。

子育て支援施策の充実を

もを持つことに大きなメリットを感じられる施策を。

町長 出生者の第1子、第2子が全体の約74%を占めているが、支給額を段階ごとに増額することは、子育て施策全体の中で検討したい。